

地域に内在し世界を構想する

JCAS Review

地域研究 Vol. 8 No. 1

特集1 リージョナリズムの現在 —— 国民国家の内と外で

[座談会] 家田修/白杵陽/遠藤貢/川島真/村上勇介/山影進

山本博之/伊藤武/若林広/小森宏美/西芳実/岡本正明

特集2 「正しい左派」と「誤った左派」の あいだで揺れるラテンアメリカ —— 2005~06年の選挙過程の事例分析

高橋百合子/浦部浩之/村上勇介

●地域研究コンソーシアム / JAPAN CONSORTIUM FOR AREA STUDIES

特集

1 リージョナリズムの現在

— 国民国家の内と外で

「座談会」 国民国家とリージョナリズム

— 地域統合を比較する

家田修、白杵陽、遠藤真、押川文子
川島真、村上勇介、山影進、(司会) 山本博之

007

「特集にあたって」「地域の文化」を求める人々

山本博之

043

「プラナカン性とリージョナリズム」——マレーシア・サバ州の事例から

山本博之

052

「領域性」と地域 —— イタリアにおける地域開発と公的金融からの接近

伊藤武

070

ベルギーの連邦化の危機 —— ヨーロッパ化と多極共存型民主主義の観点から

若林広

083

地域アイデンティティの形成 —— エストニアの場合にみる功罪

小森宏美

100

二〇〇六年アチエ統治法の意義と展望 —— マレー世界におけるリージョナリズム

西芳実

116

細分化する地域主義とその後のポリティクス

岡本正明

128

—— 民主化・分権化後のインドネシアから

特集 2

「正しい左派」と「誤った左派」の あいだで揺れるラテンアメリカ

——二〇〇五～〇六年の選挙過程の事例分析

145

「特集にあたって」

ポスト・ワシントンコンセンサス期を迎えた
ラテンアメリカの新たな模索

村上勇介

146

二〇〇六年メキシコ連邦選挙の分析

高橋百合子

158

——民主主義の揺らぎと選挙結果をめぐる対立の構図

二〇〇五／〇六年チリ大統領・議会選挙

浦部浩之

176

——選挙制度がもたらした政治構図とコンセルタシオン政権持続の意味

ペルーの二〇〇六年選挙の分析

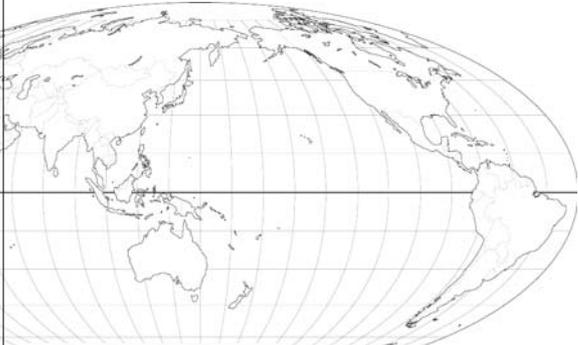
村上勇介

199

リージョナリズムの現在

—— 国民国家の内と外で

19世紀以来の国民国家の空間分割と統治概念が、いま揺らいでいる。一方で国家による地域統合が、もう一方で地方分権化と新しい市民権を求める動きが活発化するなかで、リージョナリズムの行方を問う。



リージョナリズム（地域主義）——それは、国家であれ、何らかの集団であれ、あるいは個人であれ、自らの所屬する空間的枠組みを意識的に再編しようとする動きである。

一方では進行するグローバル化のもとで、他方ではさまざまな集団がますます「我々の空間」を求めるなかで、一九世紀以来の国民国家による空間の分割と統治の概念・制度を問い直す動きが活性化している。

本特集は、国家単位の地域統合だけでなく、地方分権化や新しい市民権を求める動きなども含めて、人々と領域との関係を問い直す動きを広くリージョナリズムとして捉え、世界各地におけるその展開の分析をもとに、地域研究の視点から検討することを目的として企画された。特集全体として、今日のリージョナリズムが、国民国家の時代において自明とされてきた領域、統治、権利の多くに改変を迫る動きであると同時に、リージョナリズムの行方が国家のガバナンスに左右され、その活性化のなかでさまざまな境界のもつ意味もまた再確認されるという今日的状況を提示することがねらいである。

特集は、二つの部分から構成される。

座談会では、アジア、中東、ヨーロッパ、アフリカ、

ラテンアメリカを事例に、地域統合の現状とそれぞれの地域的特質が議論される。ここでの主たるアクターは国家であり、グローバル化を背景に国家がさまざまな地域統合を模索し地域的（リージョナル）なポジションを確保しようとするなかで、リージョナリズムと国民国家の間の相互作用が深まっていること、またリージョナリズムの牽引役としての「地域大国」の役割などが浮き彫りにされる。

座談会に続く六編の論文は、「特集にあたって」にも述べられているように、国家という枠組みを前提としつつも、人々がそれぞれ「地域」にあらたな意味を見出し、地域を創り、再編する動きについて、実証的分析を中心に構成した。主体は国家ではなく人々であり、取り上げた地域も、「地域大国」よりも、現存する国内外の地域秩序を前提とせざるをえない「周辺」と見なされてきた地域である。

一見異なる視点に見える座談会と論文部分は、じつは表裏一体である。リージョナリズムはたんなる既存の地域の再編ではない。本特集が、リージョナリズムによって、国家、統治、そして人々と空間領域との関係にもたらされている深く大きな変化を考えるひとつの契機となることを願っている。

（刊行担当）



「正しい左派」と「誤った左派」の あいだで揺れるラテンアメリカ ——2005～06年の選挙過程の事例分析

ベネズエラのチャベスを筆頭に、世界が注目する「ラテンアメリカの左傾化」は、各国でどのような様相を呈するのか？ 大統領・国会議員選が集中した近年のメキシコ、チリ、ペルーに焦点をあてて考察する。



『地域研究』刊行にあたって

グローバル化の進む今日、世界の各地は緊密に連関し、また共通の課題に直面しています。その変化や課題が展開されているのは、人々の生きる現場である「地域」。『地域研究』は、地域の総体的理解を目指す地域研究のフォーラム誌として、世界各地を対象とする多様な研究を結び、地域の視点から問題を提起し、「地域から世界を考える」ことを目標に刊行します。

『地域研究』は、編集委員会を地域研究にかかわる全国の研究教育機関、研究プロジェクト、学会、市民組織や国際機関などが参加する「地域研究コンソーシアム」におき、多様な研究対象地域やアプローチをもつ研究者が協力して編集しています。年2回の刊行は、コンソーシアム事務局を担当する京都大学地域研究統合情報センターが担当します。

投稿のご案内

『地域研究』では、特集案および個別論文を公募しています。特集企画案は編集委員会で検討し採否を決定します。個別論文は、査読を経たのち、編集委員会で採否を決定します。公募要領および執筆要項などの詳細は、2008年5月初旬以降、地域研究コンソーシアムのホームページ (<http://www.jcas.jp>) に掲載予定です。また刊行担当 (journal@cias.kyoto-u.ac.jp) にメールにてご相談いただくこともできます。

地域に立脚した視点から広く「世界」を考える企画・論考を歓迎します。ぜひふるって、ご応募ください。

『地域研究』編集委員会 (2008年3月現在)

- 飯塚正人 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 家田 修 北海道大学スラブ研究センター
- 白杵 陽 日本女子大学文学部
- 遠藤 貢 東京大学大学院総合文化研究科
- 岡本正明 京都大学東南アジア研究所
- 川島 真 東京大学大学院総合文化研究科
- 村上勇介 京都大学地域研究統合情報センター
- 村田雄二郎 東京大学大学院総合文化研究科
- 山本博之 京都大学地域研究統合情報センター
- 押川文子 京都大学地域研究統合情報センター、刊行担当

編集後記

約2年のブランクを経て、新しい体制で『地域研究』を再開することができました。今号の2つの特集は、ともにグローバル化のなかで新しい方向や地域的枠組みを求めて模索する現代国家の諸相を捉えています。読後のご意見をぜひお寄せください。2008年度以降、『地域研究』は年2回、地域研究からの発信を続けます。ご期待ください。(F.O.)

地域研究 Vol.8 No.1

| | |
|-------|---|
| 初版発行 | 2008年3月31日 |
| 編集 | 地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会 |
| 発行 | 京都大学地域研究統合情報センター 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 journal@cias.kyoto-u.ac.jp http://www.cias.kyoto-u.ac.jp |
| 制作・発売 | 株式会社 昭和堂 〒606-8224 京都市左京区北白川京大農学部前 電話 075-706-8818 / FAX 075-706-8878 振替 01060-5-9347 http://www.kyoto-gakujutsu.co.jp/showado/ |

印刷 中村印刷

©地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会 2008

Printed in Japan

ISSN 1349-5038

ISBN978-4-8122-0826-7